



NPO 法人  
**新エネルギーを  
すすめる宝塚の会**

No.44

2023年6月30日  
理事長：橋本成隆  
〒665-0022  
宝塚市野上1丁目1-8  
(Tel: 0797-69-8800)  
<https://rept.or.jp>

～ その情報はホント?ウソ? ～

## 「ファクトフルネス講座(第1回)」

～ もっともらしいナラティブ(物語)にだまされてはいけない ～

日本のエネルギー事情においてメディア等で発信されている威勢のいい論調に惑わされないように、確かな事実(データ)に基づいて適切なプロセスで推論することを学ぶ、私たち市民一人ひとりがパワーアップする講座です。

講師：安田 陽 さん  
(やすだ よう)

京都大学大学院経済学研究科 特任教授  
宝塚市再生可能エネルギー推進審議会 委員



と き：2023年7月19日(水) 18:30～20:30

(開場) オンライン、現地参加共に 18:15～開場

ところ：宝塚市立男女共同参画センター学習交流室  
1A,B & Zoom オンライン

(阪急・JR宝塚下車 ソリオ2 4階)

参加費：1回1人当たり1,000円(学割※1：500円)

(※1：大学生以下の学生は500円で参加できます)

申込方法：事前予約制(現地当日50名まで参加可能)

連絡先：メール [info@rept.or.jp](mailto:info@rept.or.jp)



●参加申し込みは、REPT ホームページにある「お知らせ」からお申し込みをお願いいたします。  
(REPT ホームページ URL <https://rept.or.jp/>)

●オンライン Zoom 参加の場合は上記申し込みページから申込みください。参加費の入金確認ができた次第入力頂いたメールアドレスに Zoom 情報を返信いたします。

●諸般の事情により変更や中止する場合があります。変更や中止の場合は REPT のホームページでお知らせします。

皆さんは「ファクトフルネス」という言葉をお聞きになられたり、目にされたことがありますでしょうか？2019年1月に出版された『FACTFULNESS（ファクトフルネス）』という書籍がベストセラーになったのでご存知の方もおられるかもしれませんが、「先入観や思い込みを排除しデータや事実に基づいて考える」ということです。

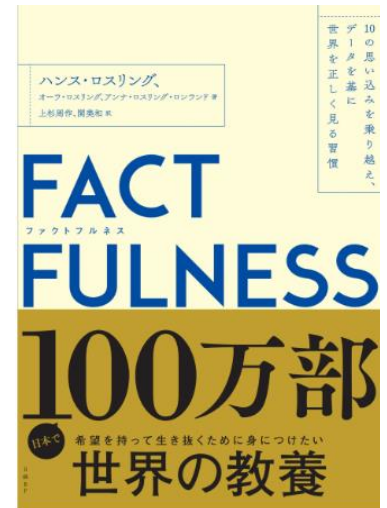
私もそうですが、日々多くの情報に接して生活しているとその情報の確かさを一つ一つ検証、確認せず「あの人が言っているから」「あの会社が発信している情報だから」と鵜呑みにしていることは沢山ありますし、判断を求められる時にも深く考えずじぶんの考えや思い込みで進めてしまっています。

自分の考えや思い込みは適切なのか？という問いに対し明確に「NO!」と教えてくれた動画がありました。TED という非営利団体が世界中の著名人による講演会を開催しその動画も公開しており、『FACTFULNESS（ファクトフルネス）』の著者であるハンス・ロスリングの講演動画も公開されています (<https://digitalcast.jp/v/21127/>)。その講演内容が大変面白く、講演中に出された質問に対する私の正答率は、なんと「チンパンジー以下?」でした。なぜチンパンジー以下の正答率になるのか？人が陥りがちな思い込みパターンの紹介もあり20分弱の動画で日本語字幕もありますので皆さんも是非一度ご覧になってください。思わず笑ってしまうこと請け合いです。

翻って、私たちの活動に関係している日本のエネルギー政策、特に再生可能エネルギーに関する情報や意見は適切なのか？GX（Green Transformation（グリーントランスフォーメーション））という言葉を用いて岸田政権がすすめている施策は適切なのか？メディアが取り上げて主張している内容は得ているのか？

将来にわたって安全で安心した暮らしを続けるためには、メディアや周囲からの情報を鵜呑みにするのではなく「先入観や思い込みを排除しデータや事実に基づいて考える」ことが必要です。ただ、どこに適切な情報やデータがありどうやって活用するのがよいのか迷うところかと思えます。そこで京都大学大学院経済学研究科 特任教授で、宝塚市再生可能エネルギー推進審議会の委員でもある安田陽（やすだよう）さんを招いた勉強会を企画しました。前号のニュースでも紹介しましたが2023年1月22日に開催した「これからどうする日本のエネルギー」の勉強会の中で、2022年3月と6月に東京電力管内で発生した電力需給がひっ迫した事案について解説がありました。

当時マスコミ等でもっともらしく説明されていた「太陽光発電が不安定説」や「原発が稼働していればひっ迫しなかった説」、「火力発電への積極投資回避が背景説」が全ての外れであったことが明らかに。もっともらしいこれらの説の検証するために、確かなデータを用いて一目で論点がわかるようにグラフ等で情報を整理されていました。その上で①地震、②季節外れの寒波襲来の2つの事象の同時発生が原因で、このどちらか一つだけであれば需給逼迫は起こらなかった可能性が高いという結論を解り易く説明されたのです。この結論を導く上で多くの情報の中からどうデータを選定しどのように推論していくのか？「先入観や思い込みを排除しデータや事実に基づいて考える」具体的な進め方を一緒に学びましょう。今年は3回に分けて勉強会を企画しており、第一回：7月19日（水）、第二回：9月20日（水）、第三回：10月25日（水）（いずれも時間帯は18:30~20:30）、場所は宝塚駅に隣接した宝塚男女共同参画センターエルの学習室（Zoomによるオンライン参加可能）を予定し



ています。3 回すべて参加できなくてもエネルギー政策に関する適切な情報や考え方を学ぶ貴重な機会になりますので、皆さん是非参加してください！（橋本成隆）



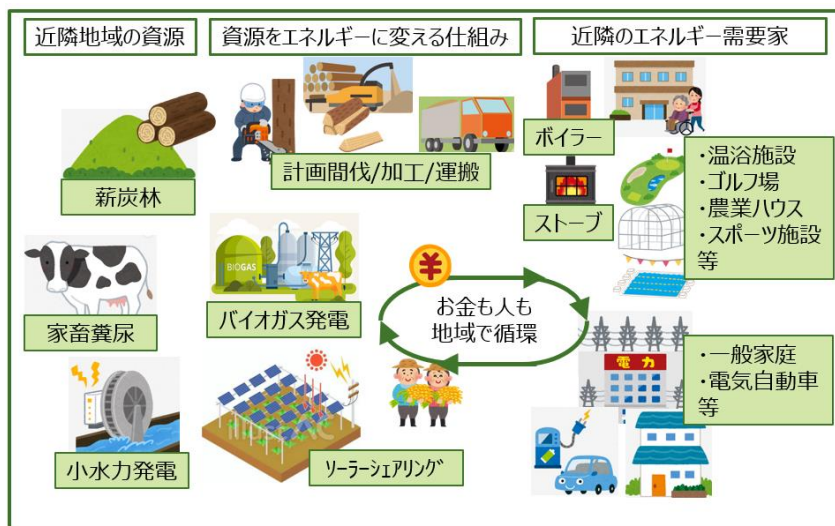
## ◆第 12 回通常総会のご報告◆

先日の 2023 年 5 月 27 日に当会の第 12 回通常総会を開催しました。

議決権正会員数 64 人中、37 人（うち委任状提出 25 名）の賛同を得てすべての議案に承認を頂きました。総会への参加と会費納入の温かい支援を頂きまして本当にありがとうございます。

総会の第 4 号議案にて表明しましたように、今年度もエネルギーの地産地消を通じたまちづくりを進めて参ります。今年度は特に宝塚の西谷地区で利用されていない薪炭林を活用した、エネルギー地産地消の推進と、都市部市民との関係人口の増加を進めたいと考えています。また、当会の収支改善に向けて、有料のイベントや講演会開催、情報発信力強化による会員の獲得、各種助成金の活用等、取りうる施策を進めていきますので、引き続きご支援よろしくお願い致します。（橋本成隆）

### ＜エネルギーの地産地消とまちづくりのビジョン＞



## ◆勉強会「戸建てでもマンションでもできる断熱対策」のご報告◆

第 12 回通常総会の後に「戸建てでもマンションでもできる断熱対策」と題した勉強会を行いました。エコハウスに関する書籍も出版されている松尾設計室の松尾 和也さん を講師にお招きし今の日本の住宅事情を学びました。冒頭に「断熱対策が不十分な自宅」が健康にもたらす悪影響を教えてくださいましたがその内容が衝撃的。毎年交通事故で亡くなる方より 4 倍以上の方がヒートショックでなくなっているとのこと。原因は日本の家の断熱性能が低いため、欧米の基準に当てはめると殆どの家が基準を満たしておらず、ドイツでは室温が 19℃以下になる家は「基本的人権を侵害している」とみなされるそうです。松尾さんに言わせると「多くの日本の家は凶器」。ヒートショックが起きやすい冬場のトイレと脱衣場はヒーター（カーボンヒーターがおすすめ）を活用し、トイレは一晩中、脱衣場は入浴前後含めた計 2 時間は温めておくべし、とのアドバイスを頂きました。

また、断熱工事をするのであれば、右図の 4 項目がおすすめ。特に冬場の夜間を過ごす部屋とお風呂、特にタイルでおおわれて大きな窓のある従

**どの家でも絶対やるべき四項目 + 1**

<div style="border: 1px solid gray; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 80%; margin: 0 auto;"> <p><b>窓の高断熱化</b></p> <p style="color: red;">L:15万円、寝室10万円</p> </div>	<div style="border: 1px solid gray; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 80%; margin: 0 auto;"> <p><b>床断熱補強</b></p> <p style="color: red;">20万円～</p> </div>
<div style="border: 1px solid gray; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 80%; margin: 0 auto;"> <p><b>ユニットバス化</b></p> <p style="color: red;">80～120万円</p> </div>	<div style="border: 1px solid gray; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 80%; margin: 0 auto;"> <p><b>天井断熱補強</b></p> <p style="color: red;">20万円～</p> </div>

電気温水器、プロパンガス給湯器は即交換

来型のお風呂はユニットバス化による断熱工事をしておいた方がよさそうです。

他にも省エネの観点から太陽光発電による電力の自家使用と余剰電力を活用した給湯が効果的とのお話でした。最後に補助金の紹介もありました。内窓設置には補助金がでるようですので、「先進的窓リノベ事業」と検索してみてください。今期分の補助金は2023年12月に終了する予定（応募が多いため早く終了する可能性あり）ですが、来年、再来年も継続する方針のようですので活用したいですね、勉強会では現実的で実用的な情報が盛りだくさんで、多くの参加者に満足いただけました。（橋本成隆）



## ◆ 「順調に育っています」 ～さつまいもと人の輪～ ◆

毎年やってくる「さつまいも」植え付け。今年もにぎやかに始まりましたが、大学生が15人参加したこの日はことさらに大騒ぎでした。毎年「初めまして」のメンバーが集うのですが作業が終わるころにはすっかり打ち解けて、早く終わった区画でたむろっている学生には容赦なくあちこちから「ここがまだだよ!」とお呼びがかり、サスケ（かんしょ植え付け器）を片手に学生たちが飛び回っています。あなたたちの植え付け方ひとつで収穫に差が出る、と声をかけると、しっかりできているかの検分が始まります。遊びではなく学びの場であることの証明ですね。



この日はソーラーシェアリング推進連盟（SS推進連盟）の理事仲間が撮影クルーを伴ってやってきたので、空を飛び回るドローンに気を取られた人も多かったですが、これは後日「ソーラーシェアリング総合研究所」のページでインタビュー動画として公開される予定となっています。



作業後の環境学習では、ソーラーシェアリングの意義とコープこうべの環境推進が主な内容でしたが、とにかく来られた方々がとても熱心に聞いてくださるのでこちらも力が入ります。ソーラーシェアリングを説明するとき、設備についてというよりも周囲との関係性に特化して話をする事が多く、初めてそれを聞く人にはとても驚かれます。設備そのものよりも取り組みを重視している宝塚すみれ発電の方法は、「電気を作るだけには終わっていない、むしろそれをきっかけとして次の展開を狙っているんですね」と言われます。それもそのはず、「再生可能エネルギーでまちづくり」を掲げてきた私たちにとって、再エネはツールの一つだからです。これからの世の中はひとつの手段、方法で大きくなっていくことは難しいだろうと思う中で、こういった小さな取組から生まれるつながりを生かして、徐々に強いものにしていくことで自分たちの足元を固めていけたらよいのではないのでしょうか。

さて、さつまいもの植え付けが終わり順調に育つさつまいもたちを横目に、新たな取り組みもスタートしています。それは「まちと農村をつなぐ米作り」。まちの人たちが米作りを体験するために、地元の農事組合法人、コープこうべ、尼崎環境カレッジが動いています。もちろん、地元でそれらの仕組みをサポートする人たちがいてこそその取り組みですが、その第一回「田植え」が行われました。ソーラーシェアリング市民農園からほど近い田んぼに大勢の人が集まり、小雨の中大騒ぎしながら稲の

苗を植えました。取り組みがスタートするまでは地元の人々も手放しで歓迎、という風ではなかったのですが、この日は違いました。迎えられた人たちは無論のこと、とにかく地元の人たちがとても楽しそうに過ごしておられたのです。田畑に多くの人々の声が響くこと、これこそが農村地帯の力になるのだと感じた瞬間でした。地域循環共生圏、私たちがやっているいろんな取り組みはまさにこれで行っている、それは間違いないと思います。これから大きくなってゆくどちらの取り組みも乞うご期待！ぜひ一度、現場に足を運んでみて、その息吹を感じていただきたいです。

(株)宝塚すみれ発電 代表取締役 井上保子



## ◆ 「木の駅プロジェクト」NPO 法人バイオマス丹波篠山 訪問報告 ◆

日本の国土の67%は森林が占めているのですが、林業の衰退や燃料として薪や炭を使用しなくなったことから、多くの森林資源が利用されず長らく放置されているのが現状です。

この森林から木を伐りだして活用する仕組みに「木の駅プロジェクト(右図参照)」という取り組みがあり、丹波篠山市でもNPO法人バイオマス丹波篠山が「木の駅プロジェクト」を立ち上げ運営しているということで訪問してきました。

高橋理事長、藤井理事のお二人にご多忙な中お時間いただき、木の駅プロジェクトを立ち上げた背景や運営実態、関係組織とのつながりなどについて聞かせて頂いたので下記に報告します。



- 2012年12月17日「丹波篠山木の駅プロジェクト」始動
- 間伐材を軽トラ一杯(350kg)当り2,000円の地域通貨券で買い取る
- 地域通貨券は丹波篠山市内の食料品店、食堂、居酒屋等で利用可能。地域通貨券は有効期間が4か月の「期限つきのお金」として利用を促進
- NPO法人バイオマス丹波篠山が原木の買取、土場の運営、地域通貨券の換金、山側作業者の安全講習、森林伐採作業計画等を行っており、実働4人で運営している
- 集荷した原木の活用策として、薪やペレット化による燃料提供、組立飾り棚キット(くでじゅう)の販売、しょうのう等樹種に応じた活用方法の提案を行っている
- 丹波篠山市の財源で地域通貨券を発行し年間80トン前後を買取(年間約50万円)に活用
- 今後の市の予算財源として森林環境税(贈与税)を活用することは、税の趣旨にも合致し財源用途としてふさわしいと考えている

宝塚市には森林組合による林業は行われていないので同様な活動は難しいかと思っていたところ、「宝塚市でも始めるのであれば協力は惜しまない。木の駅実行委員会の立ち上げ方、行政の巻き込み方等具体的な知見を提供し支援する」という力強いお言葉を頂いたので大変勇気づけられました。

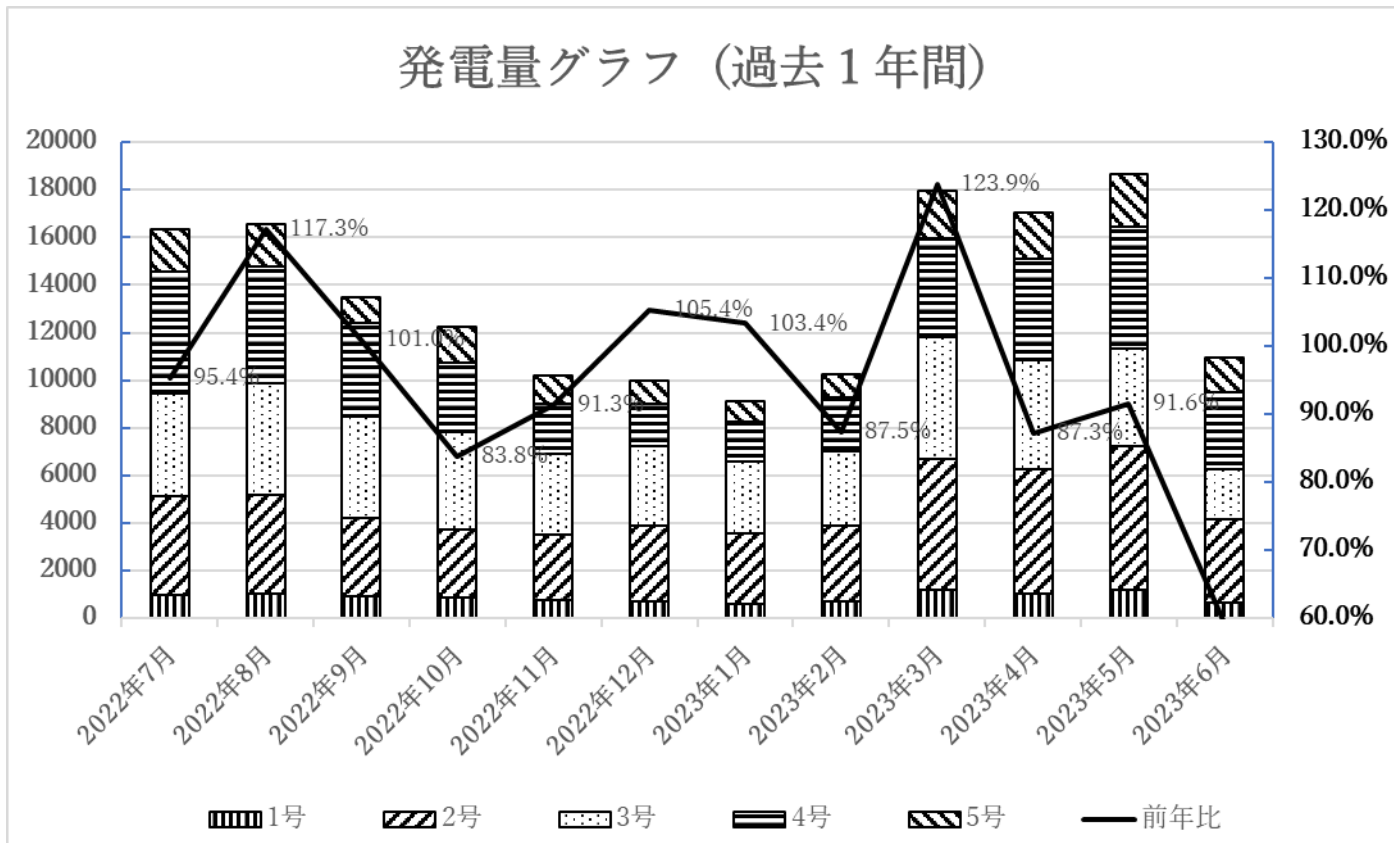
時間がかかるとは思いますが、是非宝塚でも「木の駅プロジェクト」を立ち上げてより多くの方がかわる薪炭林を活用したまちづくりを実現したいと思いました。(橋本成隆)



### ◆ 発電グラフ（2023年6月24日時点） ◆

昨年度は例年に比べて日照時間が若干短かったのかどの発電所も例年に比べて発電量は 10%程度マイナスとなっています。2号機についてはメンテナンス中に断線がみつきり現在修理を依頼しています。3号機については以前から問題になっている発電所上部の松の木の影響による松脂がパネルに付着しており、発電量を落としています。現在松脂の除去作業をしてくれる業者を探しています。

（西田光彦）



最新の詳しい発電情報は、宝塚すみれ発電のホームページ（<https://sumire.bona.jp/> / 左記 QR コード）にアクセス頂き、上部メニューの「発電所情報」からご確認いただけます。

（井上 正弘）



### お知らせ

- ニュースの配信は電子メールでも行っています。電子メールでお送りするニュースはカラーで拡大も可能で見やすいと好評です。ニュースの電子メール配信ご希望の方は info@rept.or.jp 宛に「お名前」と「ニュースの電子メール配信希望」と記載の上メールをお送りください。ニュース配信を電子メールに切り替えて頂くことは運営サイドのコスト削減にもなります。
- お願い ニュースの返送が増えています。お引越先や送付停止のご連絡をお願いします。また、長い間会費未納の方へのニュース送付を停止させていただきますこと、ご了承ください。